

関東同窓会会報 100号発行を迎えて (II)「うえだ 人」たち

関東同窓会会長 上原 昇 (2組)

前回、会報の連載コラム「上田ゆかりの偉人」について触れてみた。2回目の今回は、同じく会報長期連載シリーズの「うえだ 人」を紹介したい。

「うえだ 人」は、平成5年(1993年)12月発行の50号からその原型「同窓生登場」が始まり、スタートは49期の青木喜久弥さん(全農代表理事専務)である。途中何度かとだえているが、100号まで紹介してきた同窓生は46人を数える。井出孝光さん(61期、トイズファクトリー創業者、ミスチルなどの育ての親)は2度登場(55号と72号)しているのが面白い(写真1)。

現在のスタイル(1面全部を使って大きく取り上げる)が定着したのは81号(2011年1月発行)からで、それが今日まで続いている。取り上げる顔ぶれは、その時代を彩る人たちを編集部の意向で選んでいると思うが、年々世代が若くなり、女性の登場が増えていることがよく分かる。卒業期(年代)や性別、仕事など偏らないように気を付けて人選しているが、最近では、男性と女性の割合はほぼ半々である。

登場する人のキャリアも様々であるが、教育者や医者が比較的多く、実業家や芸術家は少ないのも上田高校同窓生の特徴を物語っているのかもしれない。政治家やお役人などは選び方が難しいこともあり、ほとんど出てこない。

同期(65期)では、96号(2018年6月発行)で、“自然派パンのレジェンド”としてルヴァンの甲田幹夫君(9組)が登場している。(これは、私(上原)が推薦して編集長が取材したものだ。写真3)

私が会長時代に取り上げた人は以下の通り。

95号 滝沢研二さん(95期、早稲田大学(理工)准教授で専門は流体工学で賞を受賞)

96号は前述の甲田君(写真3)

97号 菅沼恵子さん(66期、昭和学院女子短大学長)

98号 尾和正登さん(85期、東大を出て、転職し居酒屋店主)

99号 奥村恭子さん(64期、福祉法人甘楽育徳会理事長)

最近のコロナ禍などを見るにつけ、特に大きく世間的に評価されていなくても、地域や社会、世界のために地道に貢献している人を探し出して、取り上げることも大事なことかと思ったりしている。

100号では、信濃毎日新聞で初の女性東京支社長として活躍中の井上裕子さん(79期)に登場してもらった。こちらの記事もお楽しみに。

これも関東同窓会 HP の会報「うえだ」欄を検索するとすべて見ることができます。

(2020年5月4日)

【写真1：うえだ 人（72号、2005.1.1）：井出孝光さん(61期)】



【写真2：うえだ 人（94号、2017.6.1）：柳沢香枝さん（74期）】



【写真3：うえだ 人（96号、2018.6.1）：甲田幹夫君(65期)】

